

上海「ミニ」通信

(北九州市 上海事務所から中国・上海の「今」をお伝えします！)

九州は中国に近いこともあり、近年、中国人観光客が増加しています。人数的にはクルーズ船で半日程度寄港し、観光、買い物を済ませて離日というパターンがまだまだ多いですが、中には、熊本、阿蘇、桜島、大分の温泉などを周遊する個人旅行客も増えています。そんな中でこの4月に発生した熊本地震の影響と、ここ上海での取り組みなどをご報告します。

平成 28 年 6 月 10 日

【第2回】熊本地震の中国人観光客への影響と上海でできることについて

【今日のポイント】

- ◆九州の観光資源の現状など、正しい情報を地道に発信し続け、九州への関心を持ってもらい続けることが重要。
- ◆そのために、在上海自治体事務所が協力して、「物産」「観光」などを切り口に、「九州マンス」を今月開催。
- ◆北九州市には、九州に行きたいけど地震の影響で行きづらい観光客の欲求を満たせる素材がある（はず）。

1 熊本地震に関する中国での報道・反応

地震発生時は、桜の時期が過ぎ、中国の2つの連休(4月初めの清明節、5月初めの労働節)の狭間で、観光客が比較的少ない時期でした。しかし、地震発生直後に、約 20 人の中国人観光客が阿蘇に取り残され、中国領事館のバスで福岡まで搬送されたことなどが大きく取り上げられていました。また、地震発生直後には、中国外交部から、九州への渡航を控えるよう注意喚起がなされました(5月初めには事実上解除)。

面積あたりの地震発生率は日本には遠く及ばないものの、中国でも、過去に数万人規模の死者を出す地震を経験するなど、地震に関することについては比較的敏感なように感じました。

2 九州への観光客への影響と今後の対応

熊本のシンボルである熊本城の損壊や、南阿蘇地区のインフラの寸断などは確かに大きな問題です。しかし、同じ熊本でも黒川温泉などは通常通り営業しているなど、九州全体から見れば、実際に被災した観光資源は熊本、大分の一部に限定されているのも事実です。いま必要なのは、これらの現状についての国内外への正確な情報発信ではないでしょうか。

そこで、上海で活動する九州各県、政令市の自治体事務所などが協力して、この6月を「九州マンス」と名付けて、九州の物産、観光PRなどを通じた情報発信しようとしています。

そのキックオフイベントとして、本市、福岡県、福岡市が幹事となり、各県人会メンバーなどが一堂に会する「大九州人会」を6月1日に開催しました。

ここには、マツシマメジャテック、北九環境投資のそれぞれの現地法人の幹部の皆様など北九州ゆかりの皆様にも多数ご参加いただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。



「大九州人会」:200人の「九州人」が集まる、九州の元気を発信できる熱いイベントでした！

3 北九州市ができること

これら「九州マンス」に向けた準備などを通じて、(少なくとも観光、物産に限って言えば)「北九州市」単体をPRしていくことの難しさを改めて感じました。その一方で、九州の中のパーツの一部、または玄関口の一つとして「北九州市」の名を売っていくことは十分可能ではないかとも感じています。(北九州から見て実際のところどうなのでしょう？)。

また、もう少し視野を広げれば、中国人観光客が温泉に関心が高いのであれば、熊本、大分より近い山口県と、関門海峡を挟んだプロモーションを一緒にやることができれば、一層効果的ではないかとも思いました。

「復興支援」と大上段に構えなくても、熊本以南に行きづらい観光客に対し、例えば、熊本城の代わりに小倉城を、大分、熊本の代わりに山口の温泉をという形で提案するなど、今後も九州への関心を持ってもらい続けてもらうことが、長期的には九州全体のためになるのではないかと感じています。